

4 調査結果

全国温泉地満足度ランキング
総合部門ベスト10／秘湯部門ベスト5

総合部門（1年間の訪問者50人以上）			
順位	温泉地名	満足者の割合(%)	集計対象数(人)
第1位	岐阜 奥飛騨温泉郷	96.0	348
2	秋田 乳頭温泉郷・水沢温泉郷・田沢湖高原温泉*	95.0	202
3	熊本 わいた温泉郷	94.4	71
4	新潟 月岡温泉	94.0	83
4	静岡 堂ヶ島温泉	94.0	84
6	熊本 黒川温泉	93.7	350
7	長野 湯田中渋温泉郷	93.3	120
8	長野 上高地温泉	93.1	87
9	群馬 万座温泉	93.0	201
10	群馬 草津温泉	92.7	723

「全国温泉地満足度ランキング」では、最近1年間に行ったことがある温泉地のうち「満足した温泉地」（「とても満足」と「やや満足」の合計）を集計している。
※今年から名称を一部変更している温泉地

秘湯部門（1年間の訪問者50人以上100人未満）			
順位	温泉地名	満足者の割合(%)	集計対象数(人)
第1位	熊本 わいた温泉郷温泉郷	94.4	71
2	新潟 月岡温泉	94.0	83
2	静岡 堂ヶ島温泉	94.0	84
4	長野 上高地温泉	93.1	87
5	福島 高湯温泉	91.4	58

「総合部門」は1年間の訪問者が50人以上を対象とした。一方「秘湯部門」は、1年間の訪問者が50人以上100人未満の温泉地に限定している。

分析④

満足度96.0%の「奥飛騨温泉郷」が満足度でトップに輝く

総合部門でトップとなったのは訪問者の96.0%から「満足した」という評価を得た「奥飛騨温泉郷」。一方、秘湯部門では、昨年6位だった「わいた温泉郷」が満足者の割合94.4%で1位となった（昨年の調査条件から変更あり）。また、総合部門トップ10で最も多くの人が訪れていたのが、訪問者数723人の「草津温泉」だった。

さらに、ランキングが激しく入れ替わったのが「全国温泉地満足度ランキング」だ。たとえば「総合部門」のトップは、昨年5位の「奥飛騨温泉郷」。「秘湯部門」では、昨年6位の「わいた温泉郷」が1位になっている。これらの概観を踏まえ、次ページからはさらに考察を深めたい。

3 調査結果

全国温泉地1年間の訪問経験
ランキング ベスト10

順位	温泉地名	得票数	昨年順位
第1位	神奈川 箱根温泉	1825	→ 1
2	静岡 熱海温泉	835	↑ 2
3	大分 別府温泉郷	793	→ 3
4	兵庫 有馬温泉	739	↑ 7
5	群馬 草津温泉	723	↓ 4
6	大分 由布院温泉	690	↓ 5
7	愛媛 道後温泉	607	↑ 8
8	栃木 鬼怒川温泉	542	↑ 11
9	岐阜 下呂温泉	478	↑ 10
10	栃木 那須温泉	471	↑ 13

「全国温泉地1年間の訪問経験ランキング」では、最近1年間（2013年8月19日～2014年9月1日）に「行ったことがある」温泉地を調査した。

分析③

「箱根温泉」が盤石のトップ
2位に定着する「熱海温泉」

本部門でも「箱根温泉」が2位以下を1000ポイント近くも引き離し、盤石のトップとなった。昨年「別府温泉郷」と入れ替わって順位を上げた「熱海温泉」が、2年連続の2位になった。また、「有馬温泉」が昨年の7位から3ランクアップ。大都市圏からのアクセスが良い温泉地が得票を伸ばす傾向にあった点にも注目したい。



2 調査結果

全国あこがれ温泉地
ランキング ベスト10

順位	温泉地名	得票数	昨年順位
第1位	大分 由布院温泉	3197	→ 1
2	鹿児島 指宿温泉	1728	↑ 4
3	秋田 乳頭温泉郷・水沢温泉郷・田沢湖高原温泉*	1611	→ 3
4	大分 別府温泉郷	1575	↑ 5
5	群馬 草津温泉	1546	↓ 2
6	愛媛 道後温泉	1407	↑ 8
7	熊本 黒川温泉	1383	→ 7
8	北海道 登別温泉	1327	↓ 6
9	兵庫 有馬温泉	1024	↑ 11
10	岐阜 下呂温泉	1015	↓ 9

「全国あこがれ温泉地ランキング」では、これまで行ったことはないが「一度は行ってみたい」温泉地を調査。
※今年から名称を一部変更している温泉地

分析②

あこがれトップは「由布院温泉」
「指宿温泉」が2位に輝く

本部門では「由布院温泉」が2年連続の2位という結果に。「指宿温泉」が昨年の4位から2ランクアップの2位となり、九州勢のワンツーフィニッシュとなった。このほか、「別府温泉郷」、「道後温泉」、「有馬温泉」もランクアップ。全体の投票数に占める関東在住者の割合が高かったこともあり、「あこがれ」部門は西高東低の構図。

1 調査結果

全国人気温泉地ランキング ベスト50
（もう一度行ってみたい温泉地ランキング）

順位	温泉地名	得票数	昨年順位
第1位	関東甲信越／神奈川 箱根温泉	2635	→ 1
2	九州／大分 由布院温泉	2085	↑ 3
3	関東甲信越／群馬 草津温泉	1880	↓ 2
4	九州／大分 別府温泉郷	1562	→ 4
5	北海道 登別温泉	1380	→ 5
6	中国・四国／愛媛 道後温泉	1290	→ 6
7	九州／熊本 黒川温泉	1211	↑ 8
8	九州／鹿児島 指宿温泉	1183	↓ 7
9	北陸・近畿／兵庫 有馬温泉	1105	→ 9
10	北陸・近畿／兵庫 城崎温泉	944	→ 10
11	東海／静岡 熱海温泉	874	↑ 13
12	東海／岐阜 下呂温泉	839	→ 12
13	東北／秋田 乳頭温泉郷・水沢温泉郷・田沢湖高原温泉*	755	↓ 11
14	東海／岐阜 奥飛騨温泉郷	754	→ 14
15	九州／鹿児島 霧島温泉	676	↑ 16
16	関東甲信越／栃木 鬼怒川温泉	670	↓ 20
17	北海道 洞爺湖温泉	657	↓ 15
18	東北／山形 蔵王温泉※	656	↑ 22
19	北陸・近畿／石川 和倉温泉	631	↓ 17
20	北陸・近畿／和歌山 白浜温泉	581	↑ 26
21	北陸・近畿／石川 加賀温泉郷	560	↑ 23
22	北海道 定山渓温泉	540	↓ 17
23	関東甲信越／長野 白骨温泉	508	↑ 30
24	北海道 湯の川温泉	495	↓ 19
25	北海道 層雲峡温泉	473	↓ 21
26	北海道 阿寒湖温泉	468	↓ 25
27	九州／長崎 雲仙温泉	443	↓ 24
28	東海／静岡 修善寺温泉	438	↑ 40
29	関東甲信越／群馬 伊香保温泉	434	↓ 26
30	東北／青森 八甲田温泉・酸ヶ湯温泉	428	↑ 34
31	東海／岐阜 飛騨高山温泉	427	↑ 35
32	中国・四国／島根 玉造温泉	420	↑ 36
33	九州／佐賀 嬉野温泉	419	↓ 29
34	関東甲信越／群馬 万座温泉	415	↓ 32
35	北海道 ニセコ温泉郷	408	↑ 26
36	関東甲信越／神奈川 湯河原温泉	405	↑ 41
37	関東甲信越／長野 野沢温泉	392	↑ 38
38	東北／宮城 秋保温泉	375	↓ 37
39	関東甲信越／栃木 那須温泉	338	↑ 41
40	関東甲信越／山梨 富士河口湖温泉郷	318	↑ 54
41	東北／宮城 鳴子温泉郷	312	↓ 31
41	関東甲信越／群馬 四万温泉	312	↑ 43
43	東北／青森 十和田湖温泉郷・十和田湖畔温泉	294	↓ 39
44	北海道 十勝川温泉	274	↓ 33
45	東海／静岡 伊東温泉・宇佐美温泉	270	↑ 52
46	東海／静岡 下田温泉	264	↑ 56
47	東北／岩手 花巻温泉郷	253	↓ 44
48	関東甲信越／群馬 みなかみ18湯（旧水上温泉郷・猿ヶ京温泉・法師温泉・宝川温泉）	248	↑ 53
48	関東甲信越／栃木 日光湯元温泉	244	↓ 45
50	北陸・近畿／富山 宇奈月温泉	243	↓ 48

※今年から名称を一部変更している温泉地

発表！

人気温泉地ランキング 2015

今年で9回目の実施となる「じゃらん人気温泉地ランキング」。本年度の調査では『じゃらんnet』会員および『じゃらんnet』を利用した全国の方、およそ1万2000人から、温泉地利用に関する声が届けられている。最新データの分析や過去データとの比較を通じて、現在の温泉に求められるニーズを探る。

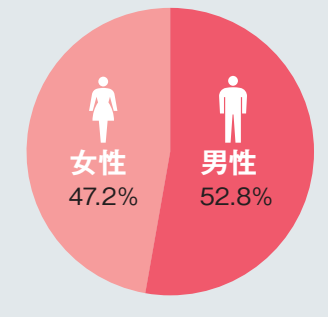
温泉地の今とこれから

じゃらん人気温泉地 ランキング2015 調査概要と回答者プロフィール

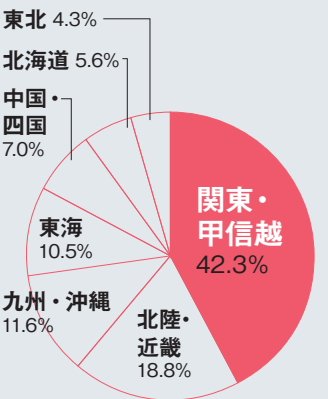
調査概要	
調査時期	2014年8月19日（火）～ 2014年9月1日（月）
調査対象	『じゃらんnet』会員または 『じゃらんnet』予約者
調査方法	インターネット上での アンケートを実施
回収数	12,048人
有効回答数	12,048人
対象温泉	計331の温泉地を 選択肢として設定

回答者プロフィール

性別（n=12,048）



居住地域（n=12,048）



分析①

1位は9年連続の「箱根温泉」
「由布院温泉」が2位に返り咲き

行ったことがある温泉地のうち「もう一度行ってみたい」温泉地を選ぶ「全国人気温泉地ランキング」。トップ5は4年連続で不動の顔ぶれ「箱根温泉」が調査開始時から9年連続となる1位となった。また、「由布院温泉」が2位に返り咲いた点にも注目したい。「白浜温泉（20位）」（+6ランク）、「白骨温泉（23位）」（+7ランク）、「修善寺温泉（28位）」（+12ランク）などの躍進も目立った。

全国温泉地1年間の訪問経験ランキング 大幅ランクアップの原動力は、 温泉+観光の合わせ技

全国温泉地1年間の訪問経験ランキング(上位30位)で5ランク以上アップした温泉地

昨年 順位	今年 順位	温泉地名	ランクアップ
(20)	➡(13)	兵庫 城崎温泉	7ランクアップ
(21)	➡(14)	鹿児島 指宿温泉	7ランクアップ
(23)	➡(18)	神奈川 湯河原温泉	5ランクアップ
(26)	➡(20)	鹿児島 霧島温泉	6ランクアップ
(27)	➡(21)	三重 鳥羽の温泉	6ランクアップ
(34)	➡(24)	山梨 富士河口湖温泉郷	10ランクアップ
(41)	➡(29)	島根 玉造温泉	12ランクアップ
(35)	➡(30)	宮城 秋保温泉	5ランクアップ

分析⑧

話題の観光地への拠点として
ジャンプアップを果たす温泉も

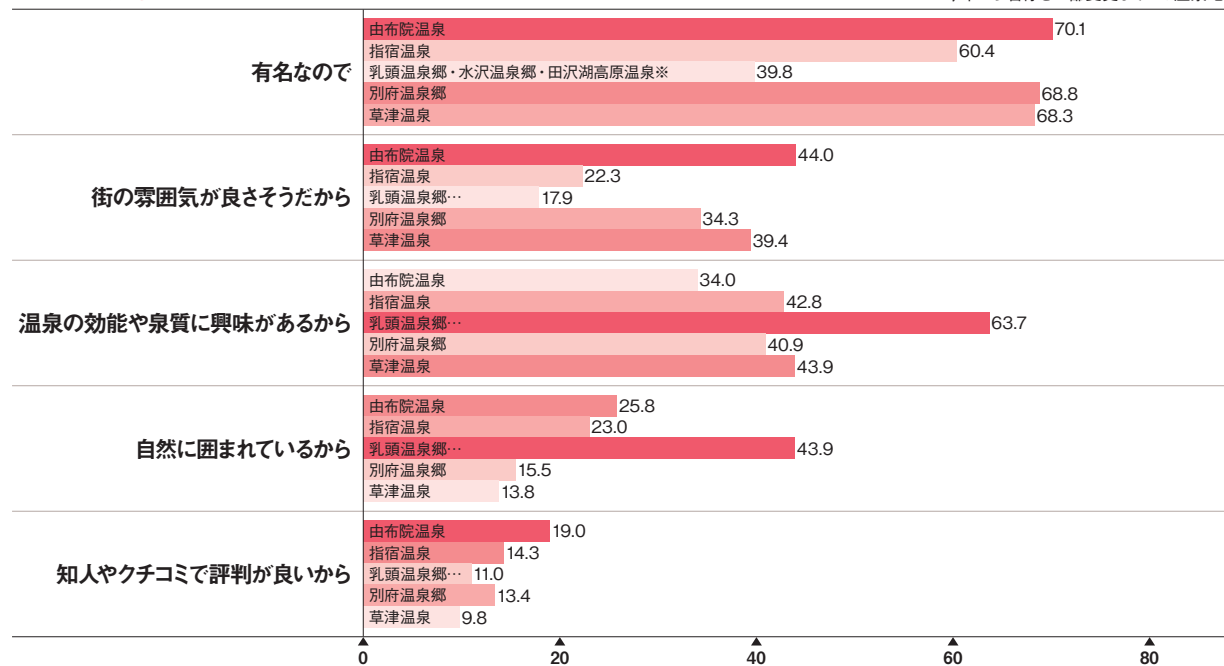
最近1年間に「行ったことがある」温泉地の上位30位では、左表の8つの温泉地が5ランクアップ以上の躍進を遂げている。特に10ランク以上アップしたのが、「富士河口湖温泉郷」と「玉造温泉」。前者は富士山の世界遺産登録、後者は出雲大社の式年遷宮と、2014年に全国的に大きな話題となった観光地へのアクセスの良さが共通しているといえるだろう。



「あこがれの温泉地」選択理由は知名度が最多だが ブランド力だけでは生き残れない時代に?

あこがれ温泉地上位5位の選択理由

※今年から名称を一部変更している温泉地



分析⑨

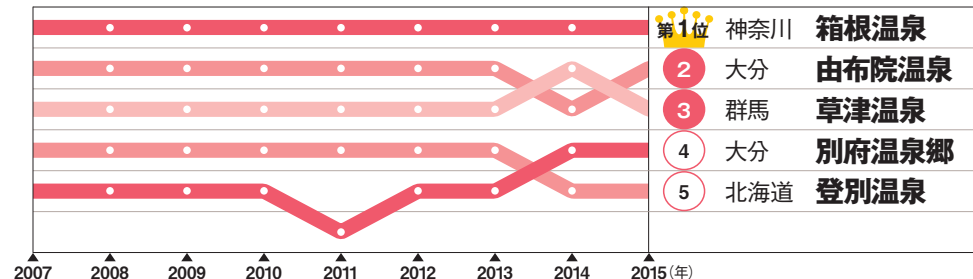
知名度が「あこがれ」を生む一方
独自の支持理由を持つ温泉地も

「あこがれる」理由についての調査では上位5温泉中4温泉で「有名なので」がトップ。ただし、前年比では「有名なので」という意見は減少傾向にあることも事実だ。「温泉の効能や泉質に興味があるから」や「自然に囲まれているから」が際立つ「乳頭温泉郷・水沢温泉郷・田沢湖高原温泉※」など、独自の魅力を打ち出す温泉地にも今後は注目したい。



由布院温泉が2位。別府温泉郷が4位。 大分を代表する2湯がライバルに競り勝つ

「もう一度行ってみたい」上位5温泉地の順位変動
(2007～2015)



分析⑤

定番の上位5温泉は、
2位以下のデッドヒートに注目!

上の経年グラフの通り、「もう一度行ってみたい」温泉地上位5温泉の顔ぶれは、調査開始以来9年間、ほぼ不動となっている。しかしここ3年間の順位の変動を見ると、「由布院温泉」と「草津温泉」が2位のポジションを競い、「別府温泉郷」と「登別温泉」が4位を争う構図となっている。今年は「由布院温泉」と「別府温泉郷」がそれぞれ上位を獲得し、大分県の底力を見せている。



男女別・全国人気温泉地 ランキングではいずれも トップテンに九州の 温泉が4つランクイン

全国人気温泉地ランキング 性別ランキング

男性ランキング (n=6358)					女性ランキング (n=6358)				
順位	温泉地名	得票数	昨年 順位		順位	温泉地名	得票数	昨年 順位	
第1位	神奈川 箱根温泉	1275	➡1		第1位	神奈川 箱根温泉	1360	➡1	
2	群馬 草津温泉	1058	➡2		2	大分 由布院温泉	1082	➡2	
3	大分 由布院温泉	1003	↑4		3	群馬 草津温泉	822	↑4	
4	大分 別府温泉郷	825	↑5		4	大分 別府温泉郷	737	↓3	
5	北海道 登別温泉	784	↓3		5	熊本 黒川温泉	643	↑6	
6	愛媛 道後温泉	736	➡6		6	北海道 登別温泉	596	↓5	
7	鹿児島 指宿温泉	666	➡7		7	兵庫 有馬温泉	585	↑9	
8	熊本 黒川温泉	568	↑13		8	愛媛 道後温泉	554	↓7	
9	兵庫 有馬温泉	520	↑12		9	鹿児島 指宿温泉	517	↓8	
10	兵庫 城崎温泉	495	➡10		10	兵庫 城崎温泉	449	➡10	

分析⑦

1位は男女ともに「箱根温泉」
九州勢の存在感にも注目したい

1位はいずれも「箱根温泉」。2位と3位は男女で「草津温泉」と「由布院温泉」の順位が入れ替わる結果となった。また、注目したいのは、男女とも九州の温泉がトップ10に4つずつランクインしている点。特に男性では「黒川温泉」が昨年の13位から5ランクアップし、8位に入っている。温泉地を都道府県別に見ると、大分県と兵庫県が2つずつ入賞したことも今年のニュースだ。

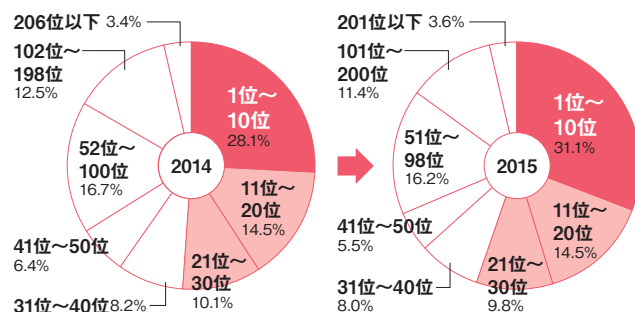


人気温泉地ランキング
2015

注目すべき!
5大ニュース
ここからは「じゃらん人気温泉地ランキング」の結果を、さらに詳しく分析。経年データやシェア、性別などのフィルターを通してランキングを俯瞰すると、今年注目すべき5つのニュースが浮かび上がった。

上位30温泉地が 全温泉地に対する総得票数の 55.4%を占める。 箱根は独走。格差は益々 広がる傾向にある!?

全国人気温泉地ランキング 順位圏別得票数のシェア



分析⑥

総得票数におけるシェアを比較すると
上位の強さが際立つ結果が浮き彫りに

複数回答をもとにした「全国人気温泉地ランキング」。総 (のべ) 得票数をもとに合計得票数のシェアをみると、上位30温泉地が55.4% (2014年は52.7%) を独占。また、1位の「箱根温泉」の得票率を時系列で追うと、18.2% (2011年調査)→18.6% (2012年調査)→18.7% (2013年調査)→19.1% (2014年調査)→22.1% (今回調査)。ランキング上位と下位の格差は広がる傾向にある。

「全国人気温泉地ランキング2015」で躍進を遂げた

「ニュース」な温泉地の魅力を探る

ここからは今回の「全国人気温泉地ランキング」で躍進を遂げた各地の温泉地の誘客戦略や最新事情をレポート! 温泉地の取り組みや環境の変化、そして旅行者のニーズの「今」を探る!

あこがれ温泉地で2位に躍進!

Report 1 指宿温泉が支持される理由とは

メディアへの露出の増加と地域の誘客への思いが結実

九州勢の活躍が目立った今回の調査。「指宿温泉」は、その勢いを象徴する温泉地。では、「指宿温泉」が注目された理由とは?

「観光協会としては例年と同じようにに誘客に取り組んできました。その中で今年特別『行ってみよう』と思って頂けた一因として考えられるのは、メディアへの露出の増加です」とは、指宿市観光協会の原幸一さんだ。

2014年の指宿は、ブラジルW杯の直前合宿の地として再三メディアに登場。その影響か今年の旅番組の取材も多く、指宿枕崎線

の指宿駅から枕崎駅に観光列車を

走らせる『夢たまプロジェクト』も話題に。さらに、大雨の影響で列車が脱線した際、地元高校生が対応にあたったことも報じられたという。

「脱線というマイナスイメージをプラスに転換できたのは大きかったですね。もともと指宿では観光列車に向かって手を振るなど、地



「砂むし風呂」は指宿温泉を象徴する入浴法。ユニークでキャッチーな観光資源は、W杯の合宿の際などにも、指宿観光の魅力として取りあげられた



観光列車を活用した「夢たまプロジェクト」など、鉄道関連のイベントが盛んに行われたことも2014年の躍進を支えた要因だ

マラソン大会として34回を迎えた「いぶき菜の花マラソン」など、イベントへの取り組みも精力的だ



元の人々が観光客を迎え入れる空気感があります。指宿は立派な観光施設が多い場所ではありませんが、豊かな自然や優しい人々などの素材には恵まれています。それらの魅力を活かしながら、今後は広域連携にも力を入れ、南九州の観光拠点としての魅力発信にも力を入れたと考えています」(同)

温泉地に人を呼び込むのは、「温泉そのもの」だけではない。あらゆる素材を活かし、魅力を発信することが必要なのだ。

Report 2

居住地別人気温泉地ランキング

東北部門居住者でトップに返り咲き 秋保温泉の変化とは?

「らしさ」にこだわった多角的な取り組みを行う

「近年、口コミやネットランキングなどをより重視した多種多様なシビアな選択肢を持ったお客様が増えています。だからこそ、秋保で何を楽しめるのか『独自の魅力』の提案が必要だと考えています」とは、秋保温泉旅館組合の広報担当者。「磊々峡ライトアップ、湯巡りスタンプラリーなどのイベントを通じて『秋保らしさ』の演出に近年特に力を入れています。また、今までPR不足だった若年層へのアプローチ策として、恋人の聖地として注目される『硯橋♡ハ



秋保温泉入口の新しい名所「硯橋♡ハート」。NPO法人地域活性化支援センターに恋人の聖地として認定され、注目度もアップ。若年層へのアプローチに一役買っている



2014年7月の「秋保ヴィレッジ」開業もニュースだった。「秋保ヴィレッジの後に秋保おはぎや日帰り入浴を楽しむ方が増えています」(広報担当者さん)

ート」の活用や街コンの実施などを行っています

仙台駅からの直行バスを整備し、「仙台から片道30分」というアクセスの良さを強化した点も、『らしさ』を訴求する施策だ。

他の温泉地にはない独自性をさまざまな角度から打ち出す取り組み。それが「居住地別 全国人気温泉地ランキング」の東北居住者部門で、2年ぶりの首位となった「秋保温泉」を支えている。

Report 3

温泉地にも『絶景ブーム』到来?

大躍進を見せた、堂ヶ島温泉と 富士河口湖温泉郷の共通点とは?

大自然が織りなす絶景を楽しむ温泉地が好調

2013年に発売された『死ぬまでに行きたい!世界の絶景』(詩歩/三才ブックス)をはじめ、数多くの「絶景本」が書店を賑わせ、2014年の流行語大賞にまでもノミネートされた「絶景」というキーワード。そのブームは、温泉地にまで波及しているようだ。

「1年間の訪問経験ランキング」で、前年より10ランクアップとなった「富士河口湖温泉郷」は、日本の「絶景」の代名詞ともいえる富士山のお膝元。また、「満足度ランキング」の総合



世界文化遺産登録された富士山の観光拠点としての需要も高まった「富士河口湖温泉郷」写真提供/風のテラスKUKUNA



伊豆半島西岸に位置する「堂ヶ島温泉」は、海に面した「絶景」露天風呂の宝庫 写真提供/海辺のかくれ湯 清流

部門で、前年の38位から堂々の4位に入賞した「堂ヶ島温泉」は、駿河湾に沈む夕陽を眺めながら入浴できるワイルドな露天風呂が楽しめる宿が多い温泉地。このほか「満足度ランキング」トップの「奥飛騨温泉郷」や同8位の「上高地温泉」も、やはり大自然が織りなす「絶景」とは縁が深い温泉地といえる。

「絶景」×「温泉」のように、トレンドやブームを集客につなげることも今後は求められるはずだ。

温泉+αのコンテンツが滞在を伸ばし、消費を生む

国内のレジャー宿泊旅行を対象とした「じゃらん宿泊旅行調査」では、2009年度まで国内旅行目的で最多が「温泉や露天風呂」から、2010年度以降は「地元の美味しいものを食べる」に順位が変わった（下表参照）。都市部に温泉・スパや大型の銭湯などが充実し、これからは温泉+αのコンテンツがあつてようやく観光客に選んでもらえる旅行先になる時代だ。特に若者ほど温泉だけではなく、一度の旅行で+αを一石二鳥で楽しみたいというデータもある。

温泉以外の地域の「ウリ」をどう開発し、プロモーションに組み込むかが、これからますます重要に。温泉という「点」が、ほかのコンテンツと結びついて「線」や「面」になることで、地域への滞在時間が長くなり、消費金額が増加するというわけだ。また、一度来てもらったお客さんをいかにリピーター化するかという点もこれまで以上に重要。「食コンテンツ」は、この+αとしても魅力が大きいことに加え、「見る観光」に比べリピートさせやすいという意味で二重に力を入れるべき分野だ。

身近なところでは、風呂上りの自販機がナショナルブランドの飲料ばかりになっていないか？からまずはチェックしていただきたい。

国内宿泊旅行の目的（単位：％）

地元の美味しいものを食べる	13年度	35.1
	12年度	34.3
	11年度	34.8
	10年度	37.2
	09年度	33.9
温泉や露天風呂	13年度	34.8
	12年度	34.3
	11年度	35.1
	10年度	34.9
	09年度	34.3
宿でのんびり過ごす	13年度	30.3
	12年度	29.3
	11年度	30.5
	10年度	30.6
	09年度	28.0

※2013年度の上位3項目の5年間の推移を表示



じゃらんリサーチセンター
研究員
稲垣昌宏

ホットベッパ―グループリサーチセンターを兼務し、食と観光の連携を研究テーマに活動中



「お湯マジ!」には2月26日現在で9567人が会員登録。性別に見ると女性が59%と女性比率が高い

ん県おおいた』の特徴とマッチした企画であることや全国に向けた情報発信により『温泉Ⅱ大分』というイメージを広げる手段として有効だと考えたことが、本プロジェクトに取り組んだ理由です』とは、大分県企画振興部 観光・地域局 観光・地域振興課 観光企画班 主査の松田雄策さんだ。

9500名以上の22歳がおんせん県の魅力を体験

温泉宿泊旅行に初めて、自主的に、行く年齢として、22歳までが約半数であることから「22歳」を対象年齢とした「お湯マジ!」。この世代の旅行時期として需要の高い「春休み期間」を含む2014年11月17日～2015年3月31日までが開催期間となっているが、現時点での手応えはどうか。



「お湯マジ!」のオープニングイベントとして開催された「お湯フェス in おんせん県おおいた」。参加者は温泉に浸かりながら、大分出身のダイノジ大地さんがプロデュースする音楽ユニット「豊満乃風」や若手芸人などのライブを楽しんだ

「2015年2月26日現在で、9567名の方に会員登録いただいたおり、手応えを感じています。これまで地域ごとに温泉に関するキャンペーン等の実績はあるものの、今回のような大規模な取り組みは初めてのことで、事業に関する説明等で県内を奔走したのは大変でしたが、100施設以上の事業者の皆様にご協力いただきました。

県下全域で民間事業者の方々とは有意義な意見交換をさせていただけたことも収穫です」さらに、横のつながりが強い若者世代に大分県の魅力を体験してもらうことで、情報が共有され、広まっている点も見逃せない。「マジ☆部」アプリにはLINEやFacebookなどに投稿できるソーシャルボタンが埋め込まれている。SNS上で「お湯マジ!」に参加した若者たちの意見を眺めると「うわっ、行きたい」「今度は全員で行きたいな〜」といったコメントが目立つのだ。

若者一人ひとりの体験や感動が小さな芽となり、やがて日本の温泉文化や旅行市場を支える大切な木となる。「お湯マジ! 22 in おんせん県おおいた」が温泉観光の未来を切り拓いて行く。

「お湯マジ! 22 in おんせん県おおいた」とは

お湯マジ! 22
ONSEN MAGIC 22

おんせん県おおいた

概要

対象者 1992年4月2日～1993年4月1日生まれの方

会員登録期間 2014年10月6日(月)より開始

実施期間 2014年11月17日(月)～2015年3月31日(火)
施設によって利用除外日・営業時間などは異なります

参画施設 100カ所以上の大分県内の温泉施設と宿

特徴

□今年度22歳の男女であれば無料で利用できる。
※入湯税の徴収が発生する場合あり

□1日何回でも、大分県内参画施設の日帰り温泉入浴が楽しめる

□スマホで「マジ☆部」アプリをダウンロードし「お湯マジ! 22」へ会員登録するだけで利用可能

□キャンペーン企画として22歳限定・オープニングイベント「お湯フェス」(11月17日実施)や「おおいたへご招待キャンペーン」を実施(往復航空券・乗船券・宿泊券をプレゼント)

JRC調べ)では、「初回訪問時に年齢が18歳～24歳」であることが、地域リピーターにつながるという調査結果が出ていることから、この世代に向けて温泉地の魅力を積極的に発信し、体験してもらうことが、将来の需要創

日本一の「おんせん県」が「お湯マジ!」に取り組む理由

源泉数、湧出量ともに日本一の規模を誇る大分県。「おんせん県」として観光事業に力を入れる同県では、22歳の若者に限って県内100施設以上の日帰り入浴料を無料とするキャンペーン「お湯マジ! 22 in おんせん県おおいた」(以

下お湯マジ!)をじゃらんリサーチセンター(以下JRC)と共同で実施している。

JRCでは、これまで『雪マジ! 19』や『ゴルフマジ! 20』等、数々の若年層需要創出プロジェクトに取り組んでいる。また、これらの施策のプラットフォームとして、スマートフォンプリ「マジ☆部」を2014年2月にリリース。若

年層が観光やレジャーを体験するきっかけを提供することで、中長期的な市場活性化を目指している。これらのプロジェクトで得たノウハウや若年層へのリーチを背景に計画された「お湯マジ!」は、JRC初となる「温泉」をテーマにした若年層需要創出プロジェクト。地域へのリピーター要因を分析する「リピーター追跡調査」(2012



「マジ☆部」アプリをダウンロードし、会員登録するだけで利用できる「お湯マジ! 22 in おんせん県おおいた」。「人気温泉地ランキング」で2位となった「由布院温泉」や4位の「別府温泉郷」をはじめ、県内約100の温泉施設が参画している

発表! 人気温泉地ランキング 2015

注目のプロジェクト!

若者に温泉の魅力を体験してもらおうとで
リピーターを育て、未来の需要を作り出す!
「お湯マジ! 22 in おんせん県おおいた」が
目指す未来とは

22歳の若者を対象に、大分県内の日帰り温泉入浴料が無料となる「お湯マジ! 22 in おんせん県おおいた」(2014年11月17日～2015年3月31日)。2月26日時点ですでに9500人を越える若者を巻き込んだプロジェクトが見据えるこの先とは。